

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1965
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.58, No.9 (1965. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19650901--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学



三田學會雜誌

1965年9月号

論 説

第一インターナショナル形成期における
マルクスとエンゲルス (その一)飯 田 鼎 1
——マルクス主義における民族、階級および体制の問題——

日本資本主義の再生産構造分析試論井村喜代子 27
北 原 勇
——昭和35年「産業連関表」を手がかりとして(三)——

アダム・スミスとエドモンド・バーク(三)白 井 厚 105
——その社会観と経済思想をめぐって——

書 評

小島 清 著
『日本貿易と関税引下げ』深海 博 明 129
——ケネディ・ラウンドの効果——

新刊紹介

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 58, No. 8

August, 1965

CONTENTS

Articles

- Über die neue Gemeinfreien-TheorieH. Uono 1
Rural Small Towns and Market-towns
in Oberlausitz, the East SaxonyM. Terao 21
Economic Growth and Technical Progress.
A SummaryF. Takahashi 56

Book Reviews

- Socialist Enterprise in China, by S. Giga
The Management and Control of Socialist Enterprise
in China, by Y. Nozaki
.....A. Hirano 84
Japan Economic Research Institute;
The North-South Problem and the
Japanese Economy'H. Fukami 88

Published for

KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)

Editorial Communications to be sent to
the Editor, Keio Gijuku Keizai Gakkai,

Keio University,

Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.

Price 120 yen

58 卷 9 号

新刊紹介

- 岩崎允胤著『現代社会科学方法論の批判』……………持丸悦朗 139
桑野仁著『現代管理通貨論』……………飯田裕康 140

第一インターナショナル形成期に

おけるマルクスとエンゲルス（その一）

——マルクス主義における民族、階級および体制の問題——

飯田 鼎

- 一、第一インターナショナルへの途
二、被圧民族の問題
三、革命と労働運動についての理論的把握

—

われわれが、第一インターナショナルの歴史について語る場合、カール・マルクスとフリードリッヒ・エンゲルスのそこにおける活動、その役割の重大さを強調しない者はなからう。しかし注意しなければならないことは、インターナショナルの結成にマルクスが参画したということは、きわめて偶然的な事件を通じてであり、マルクスとエンゲルスがこの運動の起動力となったというように考えることは、少なくとも事実に反するということである。⁽¹⁾ いうまでもなく、彼らが世界の労働運動の発展と、国際労働者協会（第一インターナショナル）の勢力の拡大と強化のために、全精力を傾けつくしたことは疑い

第一インターナショナル形成期におけるマルクスとエンゲルス（その一）